

平成 26 年度第 4 回第 2 次山県市総合計画策定審議会 会議録（要旨）

日時：平成 26 年 6 月 6 日（金）午後 1 時 30 分～

場所：山県市役所 201 会議室

出席者：委員（敬称略）丹羽 英之 藤田 昌子、大野 朝義、古田 登、平田 久美子、
大沢 登美子、杉山 正樹、吉田 茂広、佐野 恵津子、江崎 由里香

：事務局 久保田 企画財政課長
石神 企画財政課主幹
梅田 企画財政課主任
ジャパンインターナショナル総合研究所

欠席者： なし

○次第

1.開会

2.委員の委嘱

3.市長あいさつ

4.会長あいさつ

5.議事

- 1) 人口フレームにについて
- 2) 基本構想の素案について
- 3) その他

6.閉会

1.開会

【事務局】

ただいまから第 4 回第 2 次山県市総合計画策定審議会を開会する。

2.委員の委嘱

【事務局】

会議に先立ち議会で役職の交代があったため、市長から新しい委員に委嘱状を交付する。

【市長】

委嘱状の交付

3.市長あいさつ

【市長】

市政全般にお世話になりありがとうございます。平成 17 年から 10 年間に渡る第 1 次総合計画を振り返ってみると、前半は平成 16 年、17 年頃から合併特例債を利用した大型事業に取り組み、高富小学校、高富中学校、美山中学校、クリーンセンターなど、投資的な事業を行ってきた。また、後半はソフト事業を中心に各種取り組みを実施しました。第 2 次につきましては、ちょうど今年・来年の 2 年をかけて、都市計画の見直しを予定しています。これは、東海環状道の供用開

始が 2020 年という目標を一昨年に国が設定した。大野、山県のインターにつきましては、平成 30 年を目標に、あと 4 年ほどで供用開始できないかと思っています。そうしたなかで、農振の除外はなかなかできませんでした。そこで、2 年間をかけて都市計画の見直しを行います。特に東海環状道の開通に向けて今年予算では土木関係の工事費も倍以上の予算化をしている。今後、第 2 次総合計画の中では 10 年間の大きな計画を設定してもらうことになる。

今まで市としては公債費の比率が高い状態で 370 億近くだったが、平成 23 年度から平成 25 年度の 3 年間で 60 億円の借金の返済を行い、平成 26 年度末には 10 年ぶりに 300 億円を下回る。今の計画でいくと 3 年後には合併した当時の旧 3 町村分の借金、公債費の額になるのではないかと想定している。この数年間は我慢の財政運用を強いられてきた。合併算定替えは、大きな障害になっていましたが、昨年度末から総務省が報道しているように、そのままの数字を使わずに支所の設置の場所によって見直しを行う。そうしたことから、順調に公債費を返している状況を見ると、今までの福祉のサービスを落とさずに、今の財政状況を維持していけるのではないかと感じたのが今回の平成 26 年度の予算査定の状況である。

次期計画はそれ以降の様々な計画にも関係するため、いろいろな形で社会状況も変わっていくが、それをふまえて計画として作成することで、以降の事業展開に繋がっていくと考えている。

日本創生会議の人口減少問題検討会において、2040 年までに全国の 20 歳～39 歳までの出産適齢期の女性が半減するとされる 523 自治体が発表された。岐阜県では 17 市町村あったが、山県市はこの中には入っておらず安堵したところであるが、数値は 18 番目の 49.2%であった。

東海環状道開通に向けて、総合計画で少しでも地域資源を生かした魅力ある地域をつくっていかなければならない。ご支援をいただき総合計画の作成をお願いしたい。よろしく申し上げます。

4.会長あいさつ

【会長】

梅雨に入り不快指数が上がるので、それぞれ委員の方は十分にご自愛いただきたい。

5.議事

【事務局】

市長は他の公務により退席する。新しい委員が 2 名入ったこともあるため、過去 3 回の説明をさせていただく。

〈事務局より過去 3 回の説明〉

議事に入る前に手元の基本構想素案で前回の資料がなく分かりにくいので、1 回目の時は市民アンケートを行い、その内容報告とご意見をいただき、その後は計画期間や人口をどうするかということだった。

p.13、1 回目は市民意識調査の結果をご案内した。平成 24 年度に 18 歳以上 2100 人を無作為抽出、郵便によりアンケートを配布し、回収できたのが 528 人だった。25.1%と少なかったが、前回も同じような回収率だった。p.14 は今後力を入れるべき施策として高齢者福祉の充実・公共交通・企業誘致を図式化している。p.15 はポートフォリオ分析で重要性和、今ある課題の度合いをマッピングしたものである。p.16 は団体ヒアリングで 18 団体の方々からいただいた意見をまとめた。このあたりは一回目で重点的に議論した。p.3 は計画期間をどのようにするか、山県市としてどうするかについて示している。事務局からは基本構想期間は、9 年(前期を 5 年・後期を 4 年)を提案したが、まだ決定はしていない。p.21 は第 2 次総合計画のまちづくりの理念で、資料は第 1 次計画の基本理念「安らかで快適な山県の住みよいまちづくり」となっているが、言葉を変えても良いのではとの意見もあり、p.22 に他に考えられる文言、アプローチの方法が書いてある。p.23 は基本構想の大きな骨組で、どのような人口フレームにしていくか。定住人口のみでなく、交流人口についても設定していこうと考えている。また、活動人口も設定し、目標にしていきたいというのが前回までの議論だった。議会でも議会改革特別委員会で、総

合計画をどこまで議決にするのか検討しているとのことだが、事務局では情報は得ていない。もしこの場で話していただけることがあればお願いしたい。

【会長】

ありがとうございました。

新しいお2人の委員、ご意見、ご質問はあるか。

【委員】

ありません。

【委員】

ありません。

【会長】

人口フレームと計画期間については特に問題ないと思う。本日は素案を中心に説明していく。前回と変わった個所について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

前回配布した資料の訂正や、文言が分かりにくいとご意見があった部分を修正した。なお、変わった個所についてはコンサルから説明をお願いする。

【ジャパン総研】

〈ジャパン総研より第2次山縣市総合計画 基本構想素案（修正版）説明〉

【会長】

次に、人口動態の説明をお願いします。

【事務局】

〈事務局より参考資料1「人口動態」説明〉

【会長】

ありがとうございました。人口資料について質問があればどうぞ。

【委員】

交流人口やボランティア人口は山縣市在住の方も入れて、ということか。

【事務局】

そうである。

【委員】

この数値には山縣市在住の人も市外からの人もすべて入っているという捉え方でよいか。

【事務局】

市内在住の人も利用者としてカウントしている。

【委員】

わかりました。

【委員】

交流人口はどれくらいの影響があるのか。

【事務局】

交流人口の影響ということで質問をいただいたが、観光の視点も追加したいと考えている。今は主に就労関係（通勤・通学）を国勢調査からとっているのですが、この数値に合わせていければと思う。特に高速道路の開通も見込まれているので、外部の方の出入りも意識して、いかに山口市内でお金、物の交流をしてもらおうか。他には人と人との交流など幅広い視点で捉えることにより人・物・お金など、交流を活性化させていきたい。このような視点で交流人口を考えている。

【委員】

この資料は過去の年度の数値なので、一番新しい年度の数値を入れた方が比較しやすい。入れ替えられるか。

【事務局】

観光については最新の数値にできるが、就労関係は5年に1回の国勢調査を基に作成しており、そのなかの最新の数値でやっている。

【委員】

わかりました。

【委員】

人口で一番重要なのは定住人口だと思うが、27,500人という希望的な数字を目標にしないといけないのか。これを基にいろいろな計画が進んでいくと思うが。

【事務局】

今のままでいくと、26,500人程になると思っているが、そのままの数字だと全く無策ということになる。東海環状線のインターができることをふまえて都市計画を考えると、近い将来はある程度は住宅や工業地ができるのではないかと期待しているので1,000人の増加を目標に設定した。子育て環境の整備などを行いつつ、更なる人口増加に期待したい。これくらいの数字は持続できるであろうと個人的に思っている。人口を増やしていくことだけが必ずしも市にとって良いことではないが。今の人口減少傾向が悪いと思う市民ばかりでもないと思うが、東海環状線のインター開通を踏まえると人口は増加すると思っている。27,500人は無謀な数字ではない。

【委員】

知人は美山の工場に勤めているが、岐阜市に移住し通勤するというパターンが多い。どうしても南へ人口がなくなってしまふ。今までは高富への移住が多かったが最近は岐阜市に移住が多い。交流人口は増えるかもしれないが定住人口はなかなか増えないと思う。インターができるので人口増加には期待しているが、インターができて団地や新たな企業ができれば人口増加が期待できるが、最近の企業は従業員を増員しないので人口も増えない恐れがある。

【事務局】

一方では元気の良い企業は従業員が確保できないと困っている。今年度は従業員確保の事業、特に美山地域は雪が多く高富には勤務してもよいが美山勤務には抵抗がある人が多い。その既存概念を取り払うべく製造業の従業員確保事業を2,000万円ほどかけて市内の合同説明会・インターシップ制度などを展開していこうと思っている。市としても力を入れていきたい。

先ほどの話でもあったが、交流人口の指標をどうするかも難しい。計画の構想に位置付けていくかはお意見をふまえて検討して行くことになるが、重要な指標だと思っている。ぜひ皆様のご意見をいただきたい。

【委員】

団塊の世代で、退職してもシルバー人材センターに登録しない人が増えている。企業では退職したOBを安く雇い、退職したら退職金や年金でのんびり暮らす方が多い。企業の外国人研修生も一時は減ったが増えてきている。

【会長】

前にいただいた推計値の資料によると、平成35年には26,500人。今は27,500人。なぜこの人数なのか根拠の提示が必要だろう。いつの時点の何年度のものなのかについても、しっかりと書いておいてほしい。

【事務局】

こういった総合計画を作るときは国勢調査の人口を基にするが、今回は住民基本台帳の人口で作成しています。なぜ国勢調査を基にする自治体が多いのかというと、国は地方でいくらお金があるのか地方財政計画で交付税を配布するときのデータが国勢調査の人口なので、こちらを使っている自治体が多いのだが、果たして国勢調査の人口が現実的なのか住民基本台帳の人口の方が現実的なのか、この点については検討が必要だと感じている。

【会長】

どちらにしても理由についてはっきりとしてほしい。

【事務局】

わかりました。

【会長】

例えば活動人口は基本的にボランティアだろう。活動人口もどのような意味合いを持つのかをしっかりと表現して行ってほしい。交流人口も市内在住の人・市外の人とあるが捉え方を書いていかないと誤解を招く。特に人口フレームについてはしっかりと書いてほしい。基本計画に入ると

定住人口が反映されてくるので捉え方をしっかり示していきたい。

【委員】

定住人口について、現段階では山県市の全体の人口として捉えている。例えば国民健康保険だと高齢者の人数が増えれば当然上がるだろうし、単純に全体の人口がこれだけということではなく、もう少し細かく人口ピラミッドに応じた考え方をしていくことも大切だと感じる。

【事務局】

実は私も同じことを思っている。交流人口・活動人口との言葉ですが逆に若年者の人口を増やすなどの指標もあるかもしれないと思っていた。同じ 27,500 人でも高齢化率の所が 40%と 20%では施策が全く違ってくるので、年齢層に合わせた視点も必要である。ご意見を参考に議論し固めていきたい。

【委員】

活動人口はボランティア中心の人数だと思うが、生涯学習や地域の教室なども活動の一環として捉えるのであれば、こんなに少なくない。

【委員】

教育課関係は入っていないのではないか。

【委員】

1人でいくつか活動している人を含めると今の数値の3~4倍ではないかと思う。

【委員】

生涯学習とか教育関係は幅広い視点での活動人口という捉えの方が良いのではないか。

【事務局】

延べ人数を目標とすべきなのか実人数なのかと、何を基にしたら良いのかが難しいところである。皆様のご意見をいただきたい。

【委員】

総合体育館のスポーツ教室・サークル活動・図書館など市外の人が結構利用している。これは交流人口に含まれるのか。

【事務局】

含まれると考える。それも交流人口である。

【事務局】

人数を掴むのがなかなか難しい。

【委員】

いろいろなところでボランティアというと社会福祉協議会で把握している分しかでない。教育関係のコラボレーションや見守り隊など市民が頑張っている。人数は出ないのですか。

【事務局】

詳細な人数を出すように教育担当に依頼したところである。把握していないと言われたのでこれだけしかでてこない。

【会長】

活動人口も交流人口も限定的であるので上げることが良いのか悪いのか。基本指標の中でそれほど重要ではないと思う。捉え方があいまいな部分がある。

【委員】

基本指標ではなく目標の方にいれるべきか。

【委員】

いろいろな活動があるので全部上げるのは現実的ではない。定住人口は減少していても外からの交流で補えるならば上げる意味はある。ここに住んでいる人は皆活動しており、あまり意味はないと思う。

【事務局】

これからは役所の力だけでは地域の幸せづくりはできないと多くの自治体が思っている。市民との協働は必須である。市民がいかに地域づくりに関わっていただいたかをひとつの指標にしようとして交流人口が出た。1つの案として残すのであれば市民アンケートを取って、例えば一年

間に生涯学習に5回以上参加しましたか、ボランティアに参加しましたか、など項目を決めてそれに参加した人の割合が40%だったら、これを60%にしましょうというアンケートをすれば中立性が保たれるのではないかと思う。次に同じ項目でアンケートを取ってこの比率を増やそうとすれば良い。今後、市民のアンケートを指標にすることは早急に詰めたと思う。

【事務局】

様々な視点があると思うのですが市民のアンケートの数値を目標にしようというのなら今なら市民に再度アンケートを取れるのでまだ間に合う。なければよいが。

【会長】

活動人口はもともと何の指標にしようと思ったのか。

【ジャパン総研】

山口市としての地域の活力を上げていこう、という視点を計画に組み込みたいためである。

【委員】

活動人口はボランティアだけではなく老人クラブや地域活動なども多くあるので、捉え方が限定的になってしまうと数字が低くなる。慎重に統計を取らないといけない。

【委員】

高齢化していくなかで公助ではなく共助が今後は大切になる。

【事務局】

自助も。

【委員】

もちろん自助も。ボランティアの登録数など、共助の部分をもっと充実させていくことが必要である。いろいろな活動をしている人が多くいるので分かりやすく表現できれば良いと思う。どういった意味で数値を上げていくかを考えたい。

【委員】

構想の資料を見たときに、人口フレームのページで一番活力あるまちづくりができると思った。山口市の発展性が見えると感じたので大事にしていきたい。人口フレームは今後10年に対する山口市の向かう方向であると感じる。

【委員】

活動人口の地域の活性化、最初に掲げる「元気」を示すなら必要なことだと思う。しかし狭い考え方になっている。活動しているのは働いている年代より高齢者の方でとても元気が良い。それを把握するのにどのように調査するのか。手段としてアンケートしかないのかと思う。

【委員】

第1次の平成26年度では30,200人だった。計算上の数字よりも、幅を持った数字の方が活力がでてくると思う。平成24年に意識調査した資料を見ても他の市町村から転入しているのが相当あり43%ほどある。今後、東海環状線やインターチェンジが完成すれば望みがあると思う。あまり計算した数値よりは幅をもった方が計画としてよい。ずっと山口市に在住している人も40%ある。死亡・転入もあるがあまり数値に変化はない。東海環状線やインターチェンジ完成によって近隣地区や山口市がベットタウンとしても発展するかもしれないと期待している。

【委員】

高富は人口が増えるだろう。美山の北部などは人口が減少し衰退していくかもしれない。団塊の世代の人たちが定年退職を迎えて地域で活動し、活気がある状態が10年ほど続くと思うが、その後の人口増加は望めないと思う。

【委員】

伊自良は、今は増えているか。

【委員】

南地区は増えているが北は減っている。特に長滝地区あたりは若い世代がほとんどいない。小学生が1人、中学生は2~3人しかいない。私は平井地区在住なのですが活動人口はボランティアに関わっていない人でも地域活動で関わっている。平井地区は集落支援員がおり、活気があり他の地区からも活気があると褒められる。この先10年は良いと思うが。

【委員】

平井北地区にも支援住宅をつくってほしいと要望がある。

【委員】

定住人口と活動人口は重なることはある。

【委員】

問題なのは交流人口である。主催者発表の数値を基にしてはだめ。根拠になる数値でしっかりカウントし正しい数値を基にしなければ。

【委員】

もう一度アンケートをとるのもいいと思う。

【事務局】

今までにないくらい様々な視点から意見をもらえヒントを得た。定めるにしても根拠をしっかりとし、交流人口も客観的にペンなめができないような指標を模索し、元気で活動的なまちを目指す。今後はアンケートに交流人口の詳しい項目を入れようと思う。アンケートに入りたい項目があれば早めにご意見をいただきたい。

【委員】

活動している人はいくつか参加している。活動しない人をどうやって参加してもらうかもひとつの課題である。

【委員】

人口減少を前提としてやっていくのはどうかと思うが、前提としないといけないのか。

【事務局】

定住人口が、例えば 26,500 人でも 27,500 人でも施策に影響するのか考えると、誤差の範囲だと思う。ただ、大幅な人口増加を計画に謳うと、施策の財源裏付けを考えなければならず、大きな誤算を生み出すことになり、人口減少の現実も見えていかなければならない。

【委員】

国体の馬術競技場の後はどうなるのですか。例えば何かの集客施設や畜産センターなどを建てれば幼児の交流人口が増えると思う。年間の交流人数増加が確保できると思う。先の夢も視野に入れても良いのではと思う。

【委員】

交流人口増ということですね。

【委員】

そうです。

【会長】

p. 4にある経済の縮小という言葉があるが表現が良くないと思う。どんな意味で使ったのか聞きたい。

【事務局】

人口減少・少子高齢化による労働力不足、地域経済の経済力・市内総生産が縮小していることなどを意図しているが、表現については修正していく。

【委員】

制度の谷間にいる人が削除されているが。

【事務局】

制度の谷間にいる人とはどんな人が該当するのか分かりにくいと意見があり削除した。

【会長】

p. 6の5、「あらゆる取捨選択」と書いてあるがこれも良い表現ではない。

【事務局】

修正する。

【委員】

p. 22「目指す」は漢字表記ですが、ひらがな表記ではないのか。

【委員】

漢字は読みにくい。

【会長】

第1次はひらがなですね。

【委員】

「目指す」はひらがな表記方がいいですね。

【事務局】

統一したい。わかりました。

【委員】

p.22の3つの提案の個所ですが、1と3言葉が似ていて違いがわからない。

【ジャパン総研】

キャッチフレーズの案となるので、幾つかをいろいろな言い回しで表現している。言葉の並び替えてインパクトのある響きにしている。市民の幸せ・生きがい・やりがい・活力といった視点も表現していきたい。よいキーワードがあれば、次回に生すのでご意見をいただきたい。

【委員】

都市宣言の文言は、今の山県市のキャッチフレーズですか。

【事務局】

都市宣言のキャッチフレーズです。

【委員】

どのキャッチフレーズも同じように思えたのでインパクトあるフレーズを探せると良い。真ん中のフレーズが好きです。

【委員】

5番しかない。

【委員】

活力は創造するものである。努力しないと活力にならないのか疑問である。5番で同意です。

【委員】

私はこれからの9年を考えると1番の表現が良い。東海環状線が完成すると人や経済の発展も期待できるので1番が具体的に表現されていると思う。

【委員】

5番は活力もすべて含んでいる表現である。

【委員】

奥が深いですね。

【会長】

1番も良いと思うが「豊かな自然と人」という言い回しがくどいと感じるのですきりとした表現が良い。

【委員】

良いと思うが。将来的に経済をとということで。

【会長】

もう少しご意見をいただけませんか。

【委員】

「安らか」という文言は平和すぎる。

【委員】

1番でも言葉の表現の重複は避けられる。

【事務局】

「経済の交流」は文章としてギリギリの表現かと思う。人・物という表現でしたら可能ですが。

【委員】

やはり5番が良いと思う。

【委員】

5番に「人」を入れるのはどうか。

【委員】

では水と緑と「人」を大切にではどうか。元気なまちをアピールしたいので活力ある山口市など簡単なフレーズでも良いと思うし、温かみあるフレーズも考えたい。

【委員】

今後9年間の山口市が目指す姿をふまえるとなると、都市宣言はいいけれどもこのままというのはどうかとを感じる。

【会長】

たくさんいただいた意見を整理してもう一度考えてもらえませんか。

【事務局】

1番と5番をベースにということで考える。

【会長】

皆様にはしっかりと構想の内容を読んでもらい次回の会議に意見をいただき、山口市の目指す姿について議論を進めていきたい。また、人口の所はきちんとした数値を出してもらおう。他に何か意見はあるか。

【委員】

活動人口ですが、1人が3つ活動していたら「1」になるのか「3」になるのかを決めてほしい。重複して活動している人のカウントをどうするか。

【事務局】

アンケートでしたら実質人数となるのでアンケートを利用したい。

【会長】

活動人口は一人の人が多種の活動をしたらそれはカウントした方が良い。違った活動に参加していればカウントの対象になると思う。

【事務局】

アンケートで活動の詳細が分かるよう項目を工夫する。

【事務局】

議会基本改革で総合計画についてのお話があれば。

【委員】

議会基本条例の方向について話すと、今までは総合計画の基本構想などは議決を必要としていたが、議決が必要なくなり、今のところの状況は、その都度定める方向になってきている。5月に委員が交代したばかりで、今後、議論されると思いますが現状はそうなっています。

【事務局】

都市宣言は議会の議決が必須ではないが議決をとってもらったことがある。この計画も議決が必要でなくても、審議会で議論していきたいと考えている。

【委員】

最後の3章の部分だが、出産年齢適齢期の女性の流出を止めるのは緊急の課題だが、6番目目の男女平等参加社会で女性の活用をなどの文言を入れても良いのでは。何か策を打たないと若い世代は山口市にとどまらず人口増加は見込めない。私が危惧しているのは優秀な女性は山口市では力を発揮できず、山口市が好きでもやむを得ず市外に出ていくことをよく耳にするので、市としては施策を立てていかないと人口流出は避けられないのではないか。

【会長】

今の意見のように現状に対する施策の大綱はこれからでてくると思うので、また議論していきたいと思う。大変長い時間、活発にご意見をいただきありがとうございました。

閉会
以上